

2024年2月29日

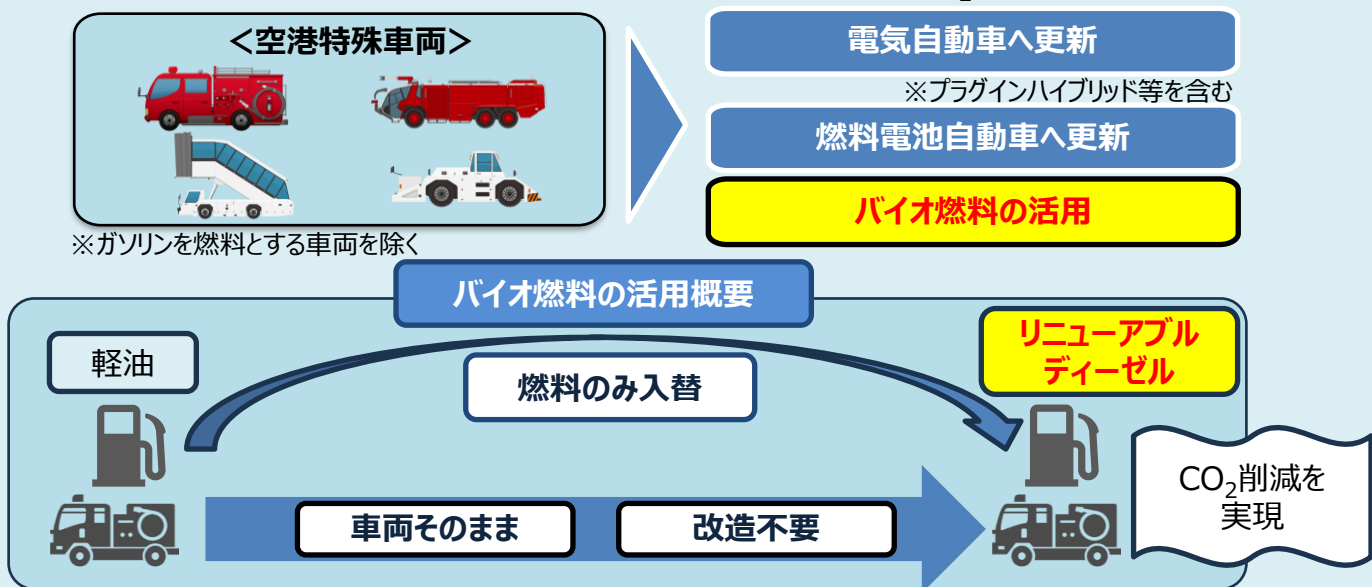
# 空港特殊車両へ次世代型バイオ燃料を導入！

～SAF製造に伴う副産物であるリニューアブルディーゼルの実証実験を3月4日から開始～

成田国際空港株式会社は、サステナブルNRT2050<sup>※1</sup>で掲げる車両のゼロカーボン化に向けた取り組みを進めており、**3月4日から消防車等の空港特殊車両に次世代型バイオ燃料であるリニューアブルディーゼル（以下「RD」、別紙参照）を導入します。**

## 空港特殊車両の脱炭素化概要

空港特殊車両の脱炭素化は、電気自動車や燃料電池自動車等への更新に加えてバイオ燃料の活用の取り組みがあります。同等の電気自動車が未開発で販売されていない等の理由から更新ができない車両は、改造不要で燃料のみをRDへ入替することで、既存の車両機能のまま約90%のCO<sub>2</sub>削減<sup>※2</sup>が可能となります。



## 実証実験概要

2023年度は、当社及びグループ会社の特殊車両4台への導入を図り、車両への影響確認や供給体制構築へ向けた検証を実施します。



- 実証期間：3月4日～本格導入まで
- 対象車両：4台  
(消防車、給水車、医療用機材搬送車、給油ローリー車)
- 実証実験内容：車両への影響確認、供給体制構築等
- CO<sub>2</sub>削減量：約20トン/年
- 導入量：約1,000ℓ/月



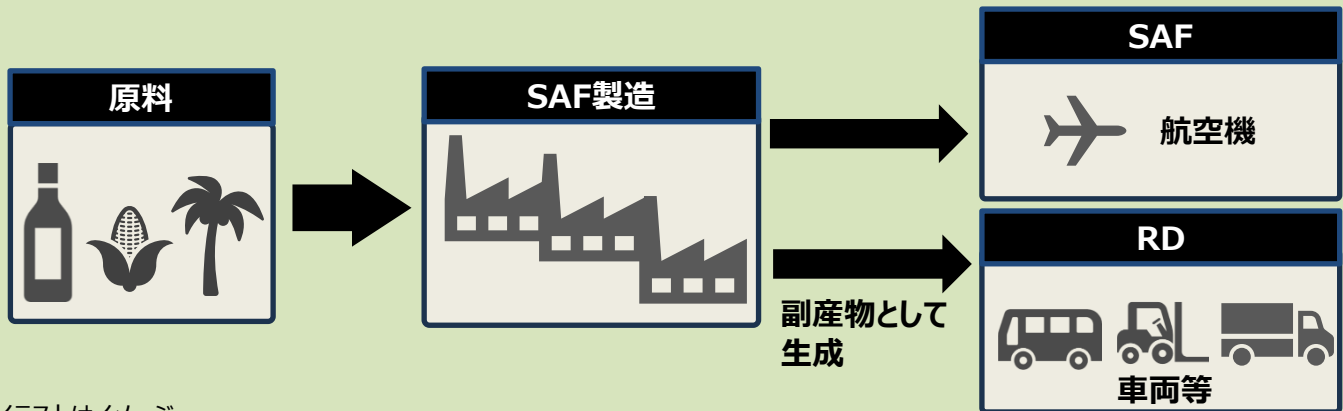
**2024年度以降、空港内軽油車両全体へ拡大し、年間約1万トンのCO<sub>2</sub>削減を目指す。\***<sup>※3</sup>

～成田空港は、空港の脱炭素化の取り組みを推進しています～

**NAA 成田国際空港株式会社**

## RD概要

- 廃食油等を原料としてSAF※<sup>4</sup>製造に伴う副産物として生成される次世代バイオ燃料※<sup>5</sup>
- 軽油に比べて約90%のCO<sub>2</sub>削減が可能
- 消防法等において軽油と同等な取り扱いが可能
- 製品の純度が高いため、長期保存が可能※<sup>6</sup>
- 他のバイオ燃料に比べ供給への懸念が少ない※<sup>7</sup>



※イラストはイメージ

※1 サステナブルNRT2050の概要 <https://www.naa.jp/eco/04plan/index.html>

※2 資源採取からリサイクルの過程において、軽油と比較して約90%のCO<sub>2</sub>削減が期待できる。

※3 成田国際空港脱炭素化推進計画における対象車両約3,000台について、電気自動車、燃料電池自動車、バイオ燃料の活用を組み合わせることでゼロカーボン化を実現させた際の想定値。

成田国際空港脱炭素化推進計画:[https://www.naa.jp/eco/news/1201\\_23078.html](https://www.naa.jp/eco/news/1201_23078.html)

※4 SAF:持続可能な航空燃料 (Sustainable Aviation Fuel)  
一定の基準を満たし、再生可能又は廃棄物を原料とするジェット燃料のこと。

※5 次世代型バイオ燃料であるRDは、軽油と混合することなくRDのみで使用。  
旧世代のバイオ燃料であるバイオディーゼル (BD) は、BD5%と軽油95%混合により使用。

※6 BDは、酸化等の影響により保存期限が3ヶ月目安となるが、RDは、3ヶ月以上の長期保存が可能。

※7 今後のSAF製造量の想定を踏まえて、RD製造量が輸入も含めて拡大されると想定。  
(持続可能な航空燃料 (SAF) の導入促進に向けた官民協議会※経済産業省 引用)